

第7回 特選 沖縄の伝統芸能

日 時：令和元年10月15日（土） 18時開演

会 場：国立劇場おきなわ 大劇場

出 演：獅子舞【川平棒・太鼓・獅子保存会／石垣市】

(出演順) 伊集の打花鼓【打花鼓保存会／中城村】

国頭サバクイ【国頭サバクイ保存会／国頭村】

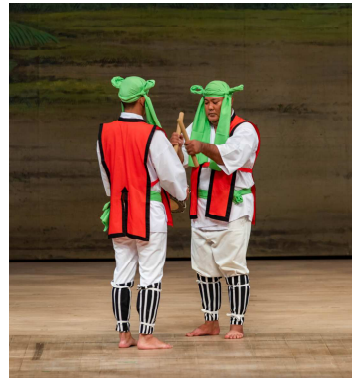
天人【天人保存会／南城市】

宮城ウシデーク【宮城ウシデーク保存会／うるま市】

解説：久万田 晋（沖縄県立芸術大学附属研究所 教授）

進行：宮城 梓

獅子舞【川平棒・太鼓・獅子保存会／石垣市】 参加26名



伊集の打花鼓【打花鼓保存会／中城村】 参加 24名



国頭サバクイ【国頭サバクイ保存会／国頭村】 参加 50名



天人【天人保存会／南城市】 参加14名



宮城ウシデーク【宮城ウシデーク保存会／うるま市】 参加28名



「第7回 特選 沖縄の伝統芸能」選定委員会 委員
沖縄県立芸術大学附属研究所 教授 久万田 晋
沖縄県立芸術大学音楽学部 講師 神谷 武史
演出家 又吉 英仁
沖縄県文化観光スポーツ部 文化振興課 課長 新垣 雅寛

主催：沖縄県・沖縄県文化協会

後援：国頭村、国頭村教育委員会、国頭村文化協会、うるま市、うるま市教育委員会、うるま市文化協会、中城村、中城村教育委員会、中城村文化協会、南城市、南城市教育委員会、南城市文化協会、石垣市、石垣市教育委員会、石垣市文化協会

広報

ポスター（A2）・チラシ（A4）

第7回 特選
沖縄の伝統芸能
明日へ響け島々の肝心

国頭サバタイ(国頭村 奥間区)
宮城ウシテーク(うるま市 宮城島)
伊集の打花鼓(中城村 字伊集)
天人(南城市 字津波江)
獅子舞(石垣市 字川上)

令和元年 10月12日(土) 17時半開場
18時開演
国立劇場おきなわ大劇場
浦添市勢理堂 4-1
098-871-3311

入場無料
(数回券が必要になります)
主催者の特別公演券
沖縄県文化協会
TEL 098-867-4746

同時開催 地域の物産展
正統の県立町村から伝統的の産品を販売します！
★観覧料は無料です！

主催：沖縄県・沖縄県文化協会
後援：国頭村、国頭村教育委員会、国頭村文化協会、うるま市、うるま市教育委員会、うるま市文化協会、中城村、中城村教育委員会、中城村文化協会、南城市、南城市教育委員会、南城市文化協会、石垣市、石垣市教育委員会、石垣市文化協会

【印刷担当】 沖縄県文化協会 〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号(文化振興課内) TEL 098-867-4746

プログラム (A4・4P)

本日の出演・参加者

解説
 沖縄県立芸術大学観劇研究部 教授 久万田 晋

進行
 宮城 祥

川平棒・太鼓・獅子保存会 (石垣市宇川平)
 【司会】 大宮 崇雄 (長崎)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)
 【本席】 大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡) 沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)
 【ゲスト】 大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡) 沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)
 【MC】 大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡) 沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)

打花鼓保存会 (中城村宇伊集)
 【司会】 宮崎 雅之、池田 雅之、伊藤 寛之 (福岡)、大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)
 【MC】 宮崎 雅之、池田 雅之、伊藤 寛之 (福岡)、大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)

国頭サバワイ保存会 (国頭村奥間区)
 【司会】 島崎 雅之、池田 雅之、伊藤 寛之 (福岡)、大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)
 【MC】 島崎 雅之、池田 雅之、伊藤 寛之 (福岡)、大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)

天人保存会 (南城市津波古)
 【MC】 島崎 雅之 (長崎)、池田 雅之 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)、大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)
 【司会】 島崎 雅之 (長崎)、池田 雅之 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)、大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)

宮城ウシデーグ保存会 (うるま市宮城島)
 【司会】 島崎 雅之、池田 雅之、伊藤 寛之 (福岡)、大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)
 【MC】 島崎 雅之 (長崎)、池田 雅之 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)、大宮 崇雄 (福岡)、島嶼 啓一 (長崎)、沖野 正志 (福岡)、伊藤 寛之 (福岡)

第7回 特選

沖縄の伝統芸能

明日へ響け島々の肝心

和元年 10月12日(日) 17時半開場 18時開演

国立劇場おきなわ 大劇場

地域 の 物 産 展

入場無料
(抽選券必須)

主催：沖縄県・沖縄県文化協会

協賛：国頭村、南城市、石垣市、うるま市、宮城島、国頭村奥間区、中城村、大宮、島崎、池田、伊藤、大宮、島崎、池田、伊藤、大宮、島崎、池田、伊藤、大宮、島崎、池田、伊藤

ごあいさつ
沖縄県文化協会 会長 新垣 健一

はいさい、ですーもー ちゅうらうがなひら
 本編では、県内各地に伝わる多岐多岐な伝統芸能や民俗行事の精華を、今年度第7回「明日へ響け島々の肝心」と題して紹介します。今年度第7回「明日へ響け島々の肝心」は、多くの伝統芸能が、生まれたい自然と悠久の歴史の中で育まれ、多くの人が語り継いできた貴重な文化財です。中でも、島嶼の歴史は、国産家の歴史と結びつき、その土地ならではの表現や物語を伝えています。ご存じの芸能もご紹介しますのでぜひお楽しみください。

【特別】沖縄の伝統芸能 観劇研究部 職員 久万田 晋
沖縄県立芸術大学観劇研究部 職員 久万田 晋
 観劇研究部 職員 久万田 晋
 沖縄県文化協会 会長 新垣 健一

ごあいさつ
沖縄県文化協会 会長 仲田 美知子

ですーもー ちゅうらうがなひら
 今年で7回目を迎えます沖縄県は、沖縄の地域に誇る貴重な伝統を、後世に伝えるものでもあります。

毎年、民俗芸能の専門家によって選定される伝統は、学校教育のカリキュラムの中には含まれていません。地域の文化継承のために、先達の技を伝えて頂き、其の間で学びたい、体感したいと、心掛けて取り組まれてきました。今年度は、地元の若者の地道な努力によって守られて来た家業です。ここに改めて、そのためにお力を貸し、深く敬意を差し感謝申し上げます。

本公演は、国立芸術大学久万田先生のお話を聞きながら、観劇もまた感動を呼ぶものと想っています。

本公演にご協力いただいた方には、会場にお届けくださったお名前のご覧になるお名前を先ず申し上げます。

ですーもー ちゅうらう。もうあざむいけんやーでいん。うらぶーといけん。観たのどな。うらぶーびら。いっぺーにやーびら。

石垣市

獅子舞 —— 川平棒・太鼓・獅子保存会

川平の獅子は400〜500年前に川平村北海岸に獅子舞が盛況したことから始まり、八重山で最古といわれています。獅子は、旧暦八月の「壬」の日に行われる総族祭の継ぎの時に「起きる」。獅子舞は農作物の豊饒と住民の無病息災を祈願する総族祭から獅子舞の賑わい、何とよばれる二人一組で渡られる。一度目目は「顔見舞い」で獅子に手を添えて、獅子に導かれ、奉納祈禱を行う道徳がある。2度目の「本舞」では獅子の動きが大きくなり、獅子の舞の付いた賑わい（舞）を見つめて舞う。川平の獅子舞であるシーシ（獅子）は今初めて石垣から外へ出た。

伊集の打花鼓 —— 打花鼓保存会

伊集の打花鼓は1985年に沖縄県無形民俗文化財に指定された。中国風を着て打鼓に合わせた打楽器を打ち鳴らすのが特徴の民謡文化である。琉球王朝時代に移住した久米村に伝わる奉公に出た若者が、そこで習った舞の形をもち、伊集の人たちが習ったのが始まりとされている。現在は演奏者2人、ガクツラ吹き2人、唐の唐打1人、フーコー持り1人、歌合奏持ち1人、前舞打ち1人、パイ持り1人、ハンシー持り1人、太鼓打ち1人の計11名で構成される。

中城村

国頭サバワイ —— 国頭サバワイ保存会

国頭サバワイは、沖縄を代表する木やり舞で、1600年に作られ、その発祥の地が国頭村奥間区にあり、昔思慕を建てるために使われる「舞材」を国頭の出島から切り出し、あまの巖地まで運ぶときに使われた。材料はやはり船で国頭まで運ぶ。多くの住人が踊り出し、偏気な労働歌を唄いながら作業をする事で、気分を上げ、苦しい作業の疲れを癒した。「サバワイ」とは琉球王朝時代の地方民の祝言で、島頭には切りの舞が舞われていた。昔思慕の舞の時に、切りの舞のサバワイの舞を舞い踊ったと伝えられている。

南城市

天人 —— 天人保存会

天人は1982年に南城市の無形民俗文化財に指定された。天人は村芝居や学校の祭りに演じられている。大主と、大主の舞いつけで舞を舞っていた頃のころの舞のような音を響き天人が踊る。120歳という大主の年齢を聞き、天人は大主の長者の位と五段の舞を授け去った。大主は息子たちを呼び、舞を持ってこさせぬことを。上流階級に「アマチュイム」(天人舞)があり、ここに天人が降り立ち、農の石には「天人の足跡」があったという伝説がある。外間守徳は、天人は地帯の舞地から立ちた前舞舞を芸術化したものだと述べている。

うるま市

宮城ウシデーグ —— 宮城ウシデーグ保存会

宮城ウシデーグは約180年前から伝わるといわれ、2005年にうるま市の無形民俗文化財に指定された。ウシデーグの舞は、はつきりとした舞。沖縄本島及び国頭島に伝わる。五段舞に特徴し、村の発展を祈るのと同時に祈る舞の舞(奉納舞)である。宮城ウシデーグの女性の舞で舞われている。国頭村15日の晩に名家(舞)、宮城舞(舞)、スシチン、フウジマンの舞で舞われる。一番または二番の形になって舞うのが古来の体形といわれている。1995年に保存会を組織し、小学生から80代までの女性が参加している。

チケット

第7回 特選

沖縄の伝統芸能

明日へ響け島々の肝心

和元年 10月12日(日) 17時半開場 18時開演

国立劇場おきなわ 大劇場

入場整理券

第7回 特選

沖縄の伝統芸能

明日へ響け島々の肝心

和元年 10月12日(日) 17時半開場 18時開演

国立劇場おきなわ 大劇場

入場整理券

主催：沖縄県・沖縄県文化協会

協賛：国頭村、南城市、石垣市、うるま市、宮城島、国頭村奥間区、中城村、大宮、島崎、池田、伊藤、大宮、島崎、池田、伊藤、大宮、島崎、池田、伊藤、大宮、島崎、池田、伊藤

お問い合わせ：沖縄県文化協会 TEL 098-867-4746